

但馬の流域学 — 岸田川流域 —

* 山室敦嗣¹

Special feature “Science of watershed ecosystem in Tajima – Kishidagawa River –”

* Atsushi Yamamuro¹

¹ Graduate School of Regional Resource Management, University of Hyogo / Hyogo Park of Oriental White Stork, 128, Shounji, Toyooka, Hyogo Pref. 668-0814, Japan

* E-mail: yamamuro@rrm.u-hyogo.ac.jp

本特集は、2015年2月7日・8日に兵庫県美方郡新温泉町で開催されたフォーラム「但馬の流域学—岸田川流域—」での諸講演をもとにしたものである。但馬の流域学は、但馬地域ですでに取り組まれている山陰海岸ジオパークやコウノトリの野生復帰をふまえて、流域という視点から但馬地域を捉えなおそうと企画した。山・川・海そして人々の暮らしとのつながりを学び、流域における環境保全活動や地域づくりの現状と課題、課題解決に向けた流域内の諸主体の連携の必要性について関係者が一堂に会して理解を深めることを目的としている。

今回のフォーラムでは、岸田川流域を取りあげた。初日は、最上流部の上山高原の自然再生をテーマにした講演が行われた。二日目は、岸田川流域全体について理解を深めるべく、流域の地形と流域生態系についての基調講演が行われ、続いて岸田川の動植物・生活・産業などにかかわる6つの報告があり、それをふまえたパネルディスカッションが行われた。

本特集は両日の諸講演をもとに、各演者にあらためて寄稿いただいた5編を収録している。二日目の報告とパネルディスカッションは紙幅の都合により掲載することができなかったが、報告者・登壇者の方々に厚くお礼を申し上げる。

以下に両日のプログラムを再掲しておきたい。

なお両日にわたる事業は、兵庫県立大学COC事業「ひょうご・地（知）の五国豊穰イニシアティブ」の一環として実施された（注）。

「但馬の流域学—上山高原の自然再生—」2015年2月7日 会場：上山高原ふるさと館

1. 講演「上山高原の地質」松原典孝（兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科）
2. 講演「草原の成立」内藤和明（兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科）
3. 講演「イヌワシからみた草原と森林」布野隆之（兵庫県立人と自然の博物館）
4. 講演「上山高原エコミュージアムの取り組みと課題」小畑和之（NPO法人上山高原エコミュージアム）

「但馬の流域学—つなげる、つながる、岸田川流域—」2015年2月8日 会場：新温泉町夢ホール

1. 講演「岸田川流域の地形と人々の暮らし」谷本 勇（新温泉町山陰海岸ジオパーク館館長）
2. 講演「エコロジカル・ユニットとしての流域生態系」江崎保男（兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科）
3. 報告

「岸田川の動植物」福原陽一郎（西但馬の自然を考える会）

「上山高原周辺の動植物と自然との関わり」山本一幸（NPO法人上山高原エコミュージアム）

「温前町・湯村、日常の温泉」朝野泰昌（湯村温泉朝野家）

「ネットワークが紡ぐ風景」岡坂遼太（NPO法人あつと但馬）

「岸田川流域と漁業の共生」川越一男（浜坂漁業協同組合）

「岸田川に子供達の喚声を取りもどしたい」杉谷 勉（岸田川漁業協同組合）

4. パネルディスカッション「岸田川流域内連携による

¹ 兵庫県立大学地域資源マネジメント研究科／兵庫県立コウノトリの郷公園

668-0814 兵庫県豊岡市祥雲寺128

* E-mail: yamamuro@rrm.u-hyogo.ac.jp

地域づくりの可能性」

パネリスト：福原陽一郎（前掲），山本一幸（前掲），朝野泰昌（前掲），岡坂遼太（前掲），川越一男（前掲），杉谷 勉（前掲），松原典孝（兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科）

コーディネーター：山室敦嗣（兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科）

（注）大学COC事業とは，文部科学省が平成25年度より全国の大学等を対象に支援を開始している事

業で，大学等が自治体と連携し，地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める取り組みである。兵庫県立大学も平成25年8月に採択され，県内の6つのプロジェクトフィールドで様々な取り組みを進めている。大学院地域資源マネジメント研究科は，但馬地域をフィールドにコウノトリの野生復帰や山陰海岸ジオパークなど，地域資源の発掘・活用・保全をつうじた地域創生をさらに推進する取り組みを豊岡市などと協働で行なっている。